

災害研職員を対象とした心肺蘇生及び AED 使用講習会を開催しました(2016/12/16)

テーマ：心肺蘇生、AED（自動体外式除細動器）
場所：東北大学クリニカル・スキルスラボ（宮城県仙台市）

2016年12月16日(金)、東北大学クリニカル・スキルスラボにおいて東北大学災害科学国際研究所の職員を対象とした心肺蘇生及び AED 使用講習会が、災害医学研究分野 災害医療国際協力学分野 佐々木宏之助教の企画で開催されました。東北大学総合地域医療研修センターの今井浩之先生（救急救命士）が講師を務め、同センタースタッフと佐々木助教が講習のサポートを行いました。当研究所からは、11名の職員（災害理学研究部門：福島洋准教授、岡田真介助教、災害医学研究部門：松原博子助教、情報管理・社会連携部門：小野裕一教授、山口章子さん、佐藤結子さん、佐野緑さん、事務部門：川村修治さん、伊藤知栄子さん、岡亨さん、佐藤恭子さん）が受講しました。

はじめにビデオ視聴で呼吸状態の確認方法、119番のかけ方、胸骨圧迫・AEDの基本を学んだのち、シミュレーターを用いて胸骨圧迫・AED使用の実技訓練を行いました。シミュレーターには胸骨圧迫の過不足を測定するモニターが装着されており、参加者は自分の胸骨圧迫が十分か否かをモニターで確認することができます。最後に、倒れている人を発見してから AED 使用までの一連の流れを復習して講習会を終えました。参加者からは「胸骨圧迫は思ったよりも体力を要する」など、実技訓練ならではの生きた感想を得ることができました。

日本では現在、年間約6万人が心室細動で命を落とすとされています。胸骨圧迫や AED 使用によって、救命につながったケースも多数報告されています。災害研職員同士のみならず災害研を訪問して下さるお客様のためにも、この講習会を継続していきたいと考えています。



AED 使用の基本を動画と実機で教わる。



シミュレーターで胸骨圧迫のトレーニングを行う。



2名で協力しながら胸骨圧迫と AED パッド装着を行う。



クリニカル・スキルスラボスタッフと受講者全員で講習会終了後記念撮影